

令和7年度重点目標：薄灰色

目標を達成したもので今後も継続して取り組む：濃灰色

今年度達成したもの：太枠

仙台市学校教育情報化推進計画				令和7年度 行動計画		令和7年度 進捗・評価	
項目	概要	令和9年度までの目標	担当課	教育委員会	学校	実績・課題	評価
基本方針1 児童生徒が、ICTを適切に使いこなし、生涯学び続けるための資質・能力の育成							
1ー(1) 情報活用能力の育成							
1ー(1)ー① カリキュラム・マネジメントによる体系的な育成	カリキュラム・マネジメントを充実させ、発達の段階に応じて、全ての子供たちの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実していく。	A 市立学校が、情報活用能力に関する意識調査の結果をもとに、情報活用能力育成の年間指導計画を作成。	教育指導課 教育センター	●情報活用能力に関する意識調査結果を学校に共有し、各学校における年間指導計画の作成・見直しを支援する。	□情報活用能力育成の年間計画を策定し、適時見直しや自校化を図る。	・令和7年度1人1台端末活用状況調査および情報活用能力意識調査を実施し、調査結果を学校と共有した。 ・ホームページで情報活用育成年間指導計画例や作成の仕方を提示した。 ・全ての学校が情報活用能力育成の年間指導計画を作成しており、今後、見直しや自校化のさらなる推進に努める。	○
		B 市立学校が、教育用クラウドを日常的に活用(常時家庭での活用も含む)できる情報活用能力育成の年間指導計画を作成。	教育指導課 教育センター	●各学校で作成された情報活用能力の年間指導計画を確認し、見直し・自校化に向けて指導・助言する。		・仙台版情報活用能力育成おすすめ単元表(小学校版、中学校版)の見直しを行い周知している。 ・年間指導計画の見直し等を教育課程訪問で指導している。 ・生成AI等の新たに学習すべき情報技術もあることから、「仙台版情報活用能力目標リスト」の更新が必要である。	○
		C みやぎ情報活用ノートのデジタル化と、StuDX Style等を参考にした授業事例の普及。	教育指導課 教育センター	●Webサイト「StuDX Style」や他都市などにおけるICTを活用した最新の授業事例を配信し、授業実践を推進する。	□ICTを活用した授業実践事例を参考に、授業づくりを進める。	・Webサイト「StuDX Style」を校務支援システムで配信した。 ・各校の実践事例について情報収集を行い、GIGAスクールサポートサイトで好事例の横展開や情報発信を行った。 ・授業事例等のさらなる普及に努め、より多くの教員に周知する。	○
		D ICTとこれまでの実践の最適な組合せ事例の研究を行い、事例を発信。	教育センター				
1ー(1)ー② プログラミング教育の推進	校種間の連携・接続を考慮して、学校で系統的にプログラミング教育を実施する。	A 市立学校で、系統的(教科等横断的)にプログラミング教育を実施。	教育センター	●最新のプログラミング教育の授業事例を配信し、授業実践を推進する。	□全学年でプログラミング教育や教科横断的な実施を目指した情報活用能力育成年間指導計画をもとに授業を実践し、校内の情報共有を図り実践事例を蓄積する。	・今後も継続して取り組む。	◎
		B 市立小中学校において、プログラミング教育やSTEAM教育を全学年及び全教科等で実施。	教育センター				
		C 毎年、プログラミング教育やSTEAM教育の事例(プログラミング検定等)を作成し積極的に発信。	教育センター				
1ー(1)ー③ 学校・家庭・地域における情報モラル教育・情報セキュリティ教育の推進	児童生徒の情報モラルの実態を把握し、家庭等と連携しながら情報モラル教育や情報セキュリティ教育を進める。	A 児童生徒の情報モラルの実態を把握し、学校と家庭の両方で効果的に取り組める情報モラル教材等を活用して、すべての学校で実施する。	教育指導課 教育センター	●各校の情報モラル教育に関する取組実態を把握し、情報モラル教材の活用支援や保護者会等での活用事例を配信する。	□情報モラル教育の授業を計画的に実施するとともに、保護者会等の機会を生かして家庭への普及啓発を図る。	・GIGAスクール推進担当者研修で情報モラルをテーマとした研修を実施し、情報モラルに関する授業の事例創出や保護者への情報モラルの啓発などの推進を行った。 ・保護者会等で端末活用等について説明をしており、家庭等へのさらなる周知に努める(保護者会等における実施率:78.4%)	○
		B 高度に発達した情報化社会に積極的に関わろうとする態度を身に付けるための取組を研究し成果を普及する。	教育センター	●生成AIに関する情報モラルの授業実践事例を各学校に周知し、授業実践を推進する。	□例示された指導案をもとに生成AIの情報モラルに関する授業を年1回実施する。	・学校情報化研究委員会の情報リテラシー部会にて生成AI活用の授業および校務の利活用について研究し、今後発信していく。	○
		C 市立学校で、情報セキュリティ教育の実施をする。	教育指導課 教育センター	●情報管理指針を改定し、常に最新の情報セキュリティに関する情報を収集し、周知する。	□情報セキュリティに関する校内研修を適宜実施し、その理解を深め、情報セキュリティ教育を実施する。	・今後も継続して取り組む。	◎

令和7年度重点目標：薄灰色				目標を達成したもので今後も継続して取組む：濃灰色		今年度達成したもの：太枠	
仙台市学校教育情報化推進計画				令和7年度 行動計画		令和7年度 進捗・評価	
項目	概要	令和9年度までの目標	担当課	教育委員会	学校	実績・課題	評価
基本方針1 児童生徒が、ICTを適切に使いこなし、生涯学び続けるための資質・能力の育成							
1－(2) 指導・学習のためのICT活用							
1－(2)－① 個別最適な学びの推進(指導の個別化、学習の個性化)	学習改善に役立てていくため、ソフトウェア等の利活用等を通じて個別最適な学びを推進する。	A 教育用クラウドやデジタルドリルなどの各種ソフトウェア等、せんだい電子図書館の利活用の普及をする。	教育指導課 教育センター	●「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けて、1人1台端末を効果的に活用した授業事例を配信する。	□ICT活用の授業実践事例を参考に、積極的に授業に取り入れ発達段階に応じて実践する。	・4月に教育用クラウドやデジタルドリルなどのソフトウェア等の研修を行った。 ・グループチャット等により教員が情報交換できる機会を創出し、活用推進の情報交換を行っている。 ・授業等における各種ソフトウェアの利活用を推進する。	○
		B キャリア・パスポートの電子化(基礎資料の電子化も含む)を検討する。	学びの連携推進室			・国や県の動向も注視しつつ検討を進める。	○
		C 個別最適な学びを推進するための研究をする。	教育センター			・教育センターの研究委員会(教育データ利活用部会)にて、教育データを学習指導や学級経営で活用する方法について研究し、発信をしていく。	○
1－(2)－② 協働的な学びの推進	児童生徒同士の対話・考えの共有・協力を通じた学びなど、多様な価値を認め合い、新たな価値を創造する協働的な学びを推進する。	A 「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」に関する市内学校の取組事例を収集し発信する。	教育センター	●国の委託事業なども積極的に活用しながら、教科等横断的な視点に立った探究的な学びの実践事例を収集し、横展開する。	□授業支援ソフトウェアを活用し、児童生徒同士の対話や考えの共有などを取り入れた授業の指導計画を作成し、発達段階や個の特性に応じた授業を実践する。	・授業づくり訪問での助言や各研修での事例等の紹介を行った。 ・授業支援ツール等も活用し、協働的な学習をさらに推進する。(授業支援ツールを使用している教員率：83.1%)	○
1－(2)－③ 探究的な学びの推進	地域の方々をはじめ多様な他者と協働しながら、実社会での問題発見や課題の解決等に当たり、教科等横断的な視点に立った探究的な学びを進める。	A 教科等横断的な視点に立った探究的な学び(学習支援ソフトウェア等の利活用を含む)に関する市内学校の取組事例を収集し発信する。	教育センター		□授業支援ソフトウェアを活用し、課題解決(探究的な学び)を取り入れた授業の指導計画を作成し、発達段階や個の特性に応じた授業を実践する。 □参考となる取組事例の情報を、常に教職員が確認できるようにするなど、教職員の学びを支援する。	・GIGAコミュニティサポート事業において、参加者が実践した事例や課題点を共有しながら実施することができた。 ・リーディングDX事業と生成AIパイロット校の支援し、実践事例をまとめた。 ・引き続きモデルとなる事例創出に取り組んでいく。	○
		B 単元の工夫、STEAMライブラリー等の利活用、副教材等のデジタルコンテンツ化の研究成果の普及をする。	教育センター				
1－(2)－④ デジタル教科書・副読本の活用	学習者用・指導者用デジタル教科書について、効果的な利活用の情報を収集し発信するとともに、各種研修に活用していく。	A 学習者用・指導者用デジタル教科書について、効果的な利活用の情報を収集し発信をする。	教育指導課 教育センター	●外国語・英語の学習者用デジタル教科書について、活用研修の実施、活用事例を収集・発信する。	□デジタル教科書研修を積極的に受講し、デジタル教科書の効果がある単元に応じて実践する。 □外国語・英語の学習者用デジタル教科書を活用する授業で、効果がある単元に応じて実践する。	・研修等で「デジタル教科書」の活用方法について周知し、活用の推進を図った。	○
		B 紙とデジタル教科書との最適な組合せ、副読本のデジタル化に関しての検証を行う。	教育指導課 教育センター			・防災副読本デジタル版(小4～中3)の改訂版を作成した。 ・次年度は理科「仙台の自然」および社会「わたしたちのまち仙台」のデジタル化を進める。	○
1－(2)－⑤ 先端技術の活用	教員を支え教育の質を高めるツールとしての先端技術を効果的に活用していく。	A 防災や安全教育、自然や文化財等の学習教材のVR化を推進し、児童生徒の学びの充実を図る。	文化財課 危機管理局減災推進課 他	●最新の先端技術の情報を収集・発信し、市内の施設で活用できるVRやARを紹介する。(仙台GIGAスクールサポートサイトに掲載)	□児童生徒に最新技術を紹介する機会を設け、校外学習などのVRやAR等に触れる機会があれば取り入れる。	・今後も継続して取り組む。	◎
		B 先端技術によるデータの整理や分析の研究成果を普及する。	教育指導課				
1－(2)－⑥ ICT活用における健康面への配慮	文部科学省のガイドブック等を参照しつつ、児童生徒の健康について、関係機関と適宜連携しながら実態を把握し、留意事項の周知・啓発を行います。	A ICT機器の利用と健康に関する実態を把握し、留意事項の周知・啓発を行う。	健康教育課	●児童生徒の健康面に係る資料などを周知し、健康面に関する啓発活動を実施する。	□デジタル機器の健康被害について、予防などの対処方法を授業で取り上げ児童生徒の実態に合わせて実践する。 □保護者への通知に、文科省通知「子供の目の健康を守るための啓発資料」など、デジタル機器の健康に関する内容を取り上げた啓発活動を年1回以上行う。	・宮城県眼科医会からの保健指導資料を養護教諭に対し周知し、デジタルデバイスと目の健康に関する啓発を実施した。 ・各学校における啓発活動を推進する。	○

令和7年度重点目標：薄灰色				目標を達成したもので今後も継続して取組む：濃灰色		今年度達成したもの：太枠	
仙台市学校教育情報化推進計画				令和7年度 行動計画		令和7年度 進捗・評価	
項目	概要	令和9年度までの目標	担当課	教育委員会	学校	実績・課題	評価
基本方針1 児童生徒が、ICTを適切に使いこなし、生涯学び続けるための資質・能力の育成							
1－(3) 学びを保障するためのICTの活用							
1－(3)－① 災害時等に学びを継続するためのICT活用	災害等の学校教育への影響が避けられない状況にあっても、児童生徒の学びを継続できるように、普段から対面授業とオンライン学習を効果的に組み合わせた学習等を行うための研究を進める。	A 一定程度オンライン学習を組み合わせた授業を展開できるような事例を発信する。	教育センター	●日頃(平常時)から端末の持ち帰りを実施することを周知し、実施状況を確認する。 ●普段から一定程度のオンライン学習を展開できるよう、各校の要望に応じた支援をする。	□日常の授業の中で、年1回以上、オンラインを活用した授業を想定した指導案を作成し実践する。	・教育センターでは、各校の要望に応じたOJTサポート訪問や問い合わせの対応で学校支援を行った。 ・今後も各学校の要望に柔軟に対応し、支援を進めていく。	○
		B 各学校において、普段の授業から一定程度オンライン学習を展開できる年間指導計画の作成及び実施をする。	教育指導課			・オンライン学習に応じた年間指導計画のあり方について検討し、状況に応じて学校へ助言を行った。 ・今後も検討を進めていく。	○
1－(3)－② 多様なニーズに対応するためのICT活用	オンライン学習教材等を活用した不登校児童生徒等への学習支援等に取り組む。また、外国籍など日本語を母語としない児童生徒等について、ICTを活用することにより、一層の教育の充実に向けた取組を進める。	A 市立学校に、不登校児童生徒等へICTを利活用した学習支援等の事例を発信する。	教育相談課	●多様なニーズ(不登校、日本語指導を要すること、あるいは特定分野に特異な才能を有することなどにより特別な支援が必要な児童生徒等)に対するきめ細やかに支援の一つとして、ICTを活用した取り組みを推進し、各校の要望に応じた支援をする。	□多様なニーズに対して、きめ細やかに支援するため、ICTを活用したオンライン学習の支援などを実践する。	・教室に入れない児童生徒の学びをサポートするため、オンライン授業の配信やデジタルドリルを活用した。また、仮想空間メタバースの授業支援を行った。	○
		B 市立学校の日本語指導が必要な(外国籍など日本語を母語としない)児童生徒等について、ICTを活用した教育活動を普及する。	国際教育推進課			・他国からの児童生徒の支援では、翻訳機ポケットーク及び、ポケットークforスクールのアカウントを貸与し、通訳ができる環境を整備して活用している。	○
1－(3)－③ 特別支援教育におけるICT活用	障害に起因する学習上または生活上の困難さを有する児童生徒が、1人1台端末を等しく活用するために特別支援学校や特別支援学級で入出力支援機器の利活用等の取組を進める。	A 特別支援学校や特別支援学級での入出力支援機器の利活用事例や、有用なアプリケーションの普及をする。	特別支援教育課	●各校が、病気療養や障害等の個別のニーズに対して、きめ細かな支援を提供するため、ICTを活用した取組を周知し支援する。	＜特別支援学校＞ □個別のニーズに応じた入出力機器を検討、活用をする。 □個別のニーズに応じて1人1台端末を活用する。 ＜院内学級＞ □個別のニーズに応じた、1人1台端末を活用したオンライン授業などの支援を行う。	・教育課程研究協議会等で教員同士が活用事例について共有する機会を設定した。 ・視線入力装置等を整備し、活用している。	◎
		B 院内学級の設置されていない病院に長期入院する市立学校に在籍する児童生徒に対しても学習の機会を保障する。	特別支援教育課			・年度始めに「療養中等の児童生徒に対する学習保障事業」に関する通知を全市立学校へ発出した。 ・学校管理のLTE機を活用した遠隔授業により学習機会を保障し出席扱いとしている。また端末を利用して科学館等とも対面形式のオンライン学習を行った。	◎

令和7年度重点目標：薄灰色				目標を達成したもので今後も継続して取組む：濃灰色		今年度達成したもの：太枠	
仙台市学校教育情報化推進計画				令和7年度 行動計画		令和7年度 進捗・評価	
項目	概要	令和9年度までの目標	担当課	教育委員会	学校	実績・課題	評価
基本方針2 教員のICT活用指導力を高めるための支援体制の充実							
2－(1) 教員に求められるICT活用指導力等の向上							
2－(1)－① 教員の資質の向上	ICT活用を前提とした授業づくりやプログラミング教育等の研修を充実し、教員のICT活用指導力を育成する。また、管理職への研修や、校内研修でリーダー的な役割を担うミドルリーダーへの養成的な研修を行い、情報活用能力の育成に関する内容を含めた校内研修の充実を図る取組を進める。	A. 教員のICT活用指導力チェックリスト等による現状把握と分析のもと、研修の計画と成果について公開する。	教育センター	●教員スキルの変容を把握し、研修内容を充実させ改善を行う。 ●オンライン環境を活用して、教員同士が学び合える場を提供する。 ●仙台版生成AI利活用ガイドラインの改訂を行い、教員の日常的な生成AIの利用を促進しスキルを向上させる。	□ICT活用指導力の向上を図るため、校内研修等を通して教員同士の学びの機会を増やし、教員のICT活用状況によって研修を設ける。 □生成AIに関して、教育委員会研修や校内研修などの受講を推奨し、教員の生成AI活用の促進を図る。	・教員のICT活用指導力チェックリストの情報を共有した。ステップアップ研修体系図の利用方法についてホームページに公開し、活用の周知を図り、研修とのつながりを整えた。 ・ステップアップ研修体系図の利用拡大を図り、各教員が自らのスキルを把握し、必要な研修の参加・開催を促す。	○
		B. ICT活用を前提とした授業づくりやプログラミング教育等の研修を充実する。	教育センター			プログラミング教育研修やICT活用研修、生成AIに係る研修、授業づくり訪問での支援を行った。 ICT活用に関する校内研修を実施した学校：90.1%	◎
		C. 教員の負担軽減を目的として、オンラインやオンデマンド形式での研修も開催する。	教育センター 他			・研修などオンラインの活用が実践され、速やか運用できる技術が身につき、緊急時でも実践できるスキルが達成された。 ・オンラインやオンデマンド形式の研修を増やしていく。	○
		D. 毎年管理職への研修を実施する。	教育センター			・今後も継続して取り組む。	◎
		E. 校内研修でリーダー的な役割を担うミドルリーダーへの養成的な研修を毎年行う。	教育センター			・今後も継続して取り組む。	◎
		F. 情報活用能力の育成に関する内容を含めた校内研修の充実を図る取組を進める。	教育センター			・今後も継続して取り組む。	◎
		G. 支援を必要とする学校への研修や授業づくりに関する訪問支援を実施する。	教育センター			・生成AIに係る研修、OJTサポート訪問やGIGAスクール端末活用研修での支援を行っている。 ・ICT活用に関する校内研修を実施した学校：90.1%	◎
2－(1)－② 人材の確保等	本市で教育実習生を受け入れる際も積極的にICTを活用する等、広く教員のICT活用指導力向上に資するよう取り組む。	A. 教育実習生等にICTを活用した授業や活動を積極的に行う。	教職員課 教育センター	●●教育実習生等に、ICTを活用した授業や活動を積極的実施する。	□教育実習での教育用クラウドサービスを活用した授業について指導や、インターシップでの授業参観などを反映させた実習計画書を作成する。	・今後も継続して取り組む。	◎
		B. 高校の情報科への対応のため、教員研修を充実する。	教育センター 高校教育課	●高校の情報科への対応のため、教員研修を充実する。	□高校情報科の研修情報を周知し、研修への参加を推進する。 □高校情報科だけでなく、1人1台端末の活用についての授業事例を収集し、校内での共有を図る。	・今後も継続して取り組む。	◎
2－(1)－③ ICT支援員などの人的支援	ICT支援員について、効果的な利活用方法を学校に周知していく。また、学校向けヘルプデスクを運営し、教員の負担軽減を図る。	A. 全市立学校に配置されたICT支援員について、効果的な利活用方法を学校に周知する。	教育指導課	●ICT支援員の有効な支援内容および支援の要望などを収集し、今後の効果的な利活用方法を周知し、推進する。	□授業支援を中心とした効果的なICT支援員の活用を図り、校内での利用促進を図る。	・今後も継続して取り組む。	◎
		B. 教員の負担軽減のため、GIGAスクール運営支援センターと同等の機能を有する学校向けヘルプデスク(GIGAスクール端末運用業務ヘルプデスク)を運営する。	教育指導課	●GIGAスクール端末運用業務ヘルプデスクおよびGIGAコミュニティサポートの安定的な運営を行う。		・今後も継続して取り組む。	◎

令和7年度重点目標：薄灰色				目標を達成したもので今後も継続して取組む：濃灰色		今年度達成したもの：太枠	
仙台市学校教育情報化推進計画				令和7年度 行動計画		令和7年度 進捗・評価	
項目	概要	令和9年度までの目標	担当課	教育委員会	学校	実績・課題	評価
基本方針3 ICTを活用するための環境整備							
3－(1) 安全・安心なICT環境の構築							
3－(1)－① 1人1台端末等活用のための環境整備	全市立学校に整備した児童生徒用及び教員用1人1台端末について、故障分の補充等により維持を続けていく。また、学習者用・指導者用デジタル教科書等について効果検証を行いながら、今後の整備の在り方を検討する。	A. 回線がひっ迫することのないよう、各学校での回線利用状況を確認しながら、必要に応じて通信環境の増強等を検討する。	教育指導課	●1人1台端末や授業支援ソフトウェア等を快適に利活用できるよう、ネットワークを定期的にモニタリングを実施・検証し、課題の把握と対策を行う。		・RPAにより1日2回の全校自動測定を行った。今後もネットワークのモニタリングを継続し、課題の把握・対策に活用する。	◎
		B. 児童生徒用及び教員用1人1台端末について、安定的な稼働に向けた、故障分の補充等や更新を実施する。	教育指導課			・1人1台端末について、小学校を令和7・8年度、中学校を令和9年度に更新する計画を策定しており、計画に基づき順次更新していく。 ・後年度に更新する学校には、令和7年度更新校から回収した端末状態のよい端末を補充した。	◎
		C. コンピュータ室としてのニーズが終了した後の活用は、各校の事情に合わせて検討する。	教育指導課 教育センター			・コンピューター室については、各校の実態に合わせた利活用をしている。 ・探究Labの機器整備を含めた学校支援を行い、ICT機器の活用方法について再度確認した。	○
		D. 実証事業や研究の成果、整備等の効果検証をしつつ、より効果的な活用に向けた整備の在り方等を検討する。	教育指導課 教育センター			・デジタル教材を効果的に活用するために、より学習効果が高まる大型提示装置について企業と連携して小学校で検証している。	○
3－(1)－② デジタル教材等の整備	MEXCBTやデジタル化された副読本の整備を進めるとともに、先端技術の活用に関する研究を進める。	A. デジタル化された副読本の整備を進めるとともに、先端技術の活用に関する研究を行う。	教育指導課 教育センター	●デジタル化された副教材(みやぎ情報活用ノート、仙台版防災教育副読本)の効果的な利用の事例を収集・配信する。		・今後も継続して取り組む。	◎
3－(1)－③ 教育データの利活用、教育DXの推進	教育現場における学習者や教育者の日々の学習や実践の改善に資する教育データ利活用についての研究を進める。また、学習eポータルやMEXCBTによるCBTで取得できるデータの利活用、キャリアパスポートの利活用や電子化に関する検討も併せて進める。	A. 教育現場における学習者や教育者の日々の学習や実践の改善に資する教育データ利活用(指導技術の可視化等を含む)についての研究を行う。	教育センター	●教員がデジタルドリル等の学習履歴の活用するとともに、児童生徒が学習履歴を活用できる取り組みを推進する。		・学校情報化研究委員会教育データ活用部会にて学習データやダッシュボードの活用について研究、発信した。	○
3－(1)－④ 個人情報保護等	情報管理指針を毎年改訂し各学校に周知するとともに、学校へセキュリティに関する支援をしていく。	A. 各学校へセキュリティに関する最新の情報提供や研修等の支援を行う。	教育指導課	●実態に合わせた情報管理指針の改訂を行い、セキュリティ研修を通じてセキュリティの重要性を周知する。		・今後も継続して取り組む。	◎
3－(1)－⑤ 著作権への対応	授業目的公衆送信補償金等管理協会(SARTRAS)より許諾を受け、教員が他者の著作物を円滑に利用できるようにしていく。	A. 著作権に関する最新の情報提供や研修等の支援を行う。	教育指導課	●市立学校へ著作権に関する最新の情報を収集し周知する。		・今後も継続して取り組む。	◎

令和7年度重点目標：薄灰色				目標を達成したもので今後も継続して取組む：濃灰色		今年度達成したもの：太枠	
仙台市学校教育情報化推進計画				令和7年度 行動計画		令和7年度 進捗・評価	
項目	概要	令和9年度までの目標	担当課	教育委員会	学校	実績・課題	評価
基本方針4 学校情報化の推進とICT活用の推進体制構築							
4－(1) 学校の情報化の推進							
4－(1)－① 情報化による校務効率化	校務支援システムの利活用による働き方改革を推進するため、適宜システム改修を行う。学校と家庭との連絡機能の検討や、学校評価アンケート等のアンケートのデジタル化等による教員の事務負担軽減を図る。	A. 働き方改革を推進するため、校務支援システム等の利活用を検討する。	教育指導課	●保護者連絡ツールや自動集計システムの効果的な活用について事例を周知する。	□保護者連絡ツールや自動集計システムについて研修を行い、効果的な活用を図る。	・今後も継続して取り組む。	◎
4－(2) 教育の情報化に関する推進体制							
4－(2)－① 学習の継続的な支援等のための体制の整備	教育の情報化を推進するため、教育委員会は本計画をもとに、全市的な環境整備等に取り組む。また、学校はそれぞれの状況に応じて、本計画を学校経営に取り入れ、各教科等での学習活動に取り組む。	A. 学校の情報化の推進に向け、仙台市GIGAスクール推進協議会の助言を受けながら、教育の情報化における取組等について検討し、各学校にその取組等を周知する。	教育指導課 教育センター	●教育の情報化における取組等について検討し、各学校に協議内容について周知する。	□教育の情報化における取組について教職員の理解を深め、教育の情報化と各教科などでの学習活動を実践する。	・今後も継続して取り組む。	◎
		B. 本計画を学校経営に取り入れ、各教科等での学習活動で実施する。	教育指導課 教育センター	●教育情報化推進計画を踏まえた学校経営に関する管理職研修を実施する。		・今後も継続して取り組む。	◎
4－(2)－② 調査研究及び情報発信	端末利活用の取組事例等に関する情報を収集し、その事例等について情報発信し、各学校が参考にできるようにする。	A. 先進的な研究や国の事業へ積極的に参加し、仙台GIGAスクールサポートサイト内において、その成果や事例等について情報発信し、各学校が参考にできるようにする。	教育センター	●1人1台端末の活用推進について、家庭の理解を広げられるよう仙台市GIGAスクールサポートサイトに情報を掲載し周知を図る。	□管理職は、仙台市GIGAスクールサポートサイト等を参考に、職員会議等を通じてICT活用にかかわる取組みについて周知し、学校全体で授業改善を積極的に推進する。	・教育センターホームページに「教育DX」のタブを設定し、GIGAスクール構想に係る情報を得ることができるようにした。 ・リーディングDX事業や生成AIパイロット校事業に参加し、事例の創出を行い情報発信を予定している。	○
4－(2)－③ 地域、大学や民間事業者等との連携	市内教育施設との連携や地域の大学や民間事業者など、地域の力を学校の中に取り込み、学校をサポートする体制を検討・実施していく。	A. 市内教育施設との連携や地域の大学や民間事業者など、地域の力を学校の中に取り込み、学校をサポートする体制を検討・実施する。	教育センター	●市内教育施設や地域との連携などの事例を収集・配信する。	□学校外施設の利用や地域の方との交流の際に1人1台端末の活用を検討し、積極的に学びの促進を推進する。	・今後も継続して取り組む。	◎
4－(2)－④ 市民の理解と関心を高める取組	仙台GIGAスクールサポートサイト等の更新を図りながら、端末利活用に向けた種々の情報提供を行う。	A. 仙台GIGAスクールサポートサイトや、教育センターのWebページで、利活用に向けた情報提供をする。	教育センター	●1人1台端末の活用推進について、家庭の理解を広げられるよう仙台市GIGAスクールサポートサイトに情報を掲載し周知を図る。	□保護者会で授業におけるICTの活用について説明するなど、年1回以上説明する場を設け、理解を深められる取組を実施する。	・GIGAスクールに関する保護者アンケートを実施。GIGAスクール推進担当者研修で情報モラルの啓発やGIGA構想の理解を深める取組の重要性について研修を行った。 ・家庭の理解を深められるような取組の推進に努める。	○
		B. 仙台市教育委員会が主催や後援する学校教育の情報化等に関する理解と関心を深めるための市民公開講座等を開催する。	生涯学習課			・保護者対象に、新入学説明会などの機会を利用し、啓発活動を行うよう、市立中学校へ依頼している。 ・PTA行事等で保護者向けに啓発活動を行うよう、各中学校PTAへ依頼している。 ・保護者会等で端末活用について説明をしており、家庭等へのさらなる周知に努める(保護者回答における実施率:78.4%)	○